

令和5年度 第2回平塚市障がい者自立支援協議会 議事録

令和5年10月30日(月)10:00～
平塚市役所・平塚税務署 本庁舎4階 410 会議室

【委員】

参加者：遠藤委員、赤部委員、前田委員、鈴木委員、与野委員、佐藤(綾)委員、佐々木委員、竹内委員、宮崎委員、望月委員、佐草委員、島田委員、橋本委員、村田委員
欠席者：山崎委員、松本委員、佐藤(隆文)委員、益子委員

【事務局】

障がい福祉課：市川課長、村田課長代理、千葉課長代理、澤野主査、麻野主査、萩原主査、石田主査、西谷主任、津田主任

こども家庭課：佐伯課長代理、池田主任

災害対策課：杉山主査

オブザーバー：湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター千葉氏

傍聴者 3名

開会の宣言

【課長】

定刻になり、これより協議会を始める旨の宣言がある。

【事務局】

資料の確認

【会長】

傍聴者の入場が許可される。(傍聴者3名)

議事

1 神奈川県日中サービス支援型共同生活援助に関する報告・評価

【グループホームユミト NPO 法人スプラウト代表眞下氏より】

資料に沿って説明

一番の課題が人手不足である。最低基準は満たしているが、主な対象者が重症心身障がい児者であるため、複数人対応が必要になり職員が足りない。短期入所のニーズは上がっているが(スプラウト利用者等)グループホーム体制が整わず受け入れてきていない。募集をかけても応募がなく、最近やっと一人入職が決まった。

主な対象者が重症心身障がい児者なので、表情をみながら支援をしていく状況で、なんとか

日々を過ごしている。もう少し利用者にそって支援していきたいと思っている。丁寧にできていないというのが反省点である。

今後は他の事業所との連携もできるようにしたい。次年度の報酬改定にも期待しつつ、各市町村の重度障害者支援加算等の検討についても要望している。

【委員】

短期入所について。グループホームの運営が大変な中で受け入れしてもらえてとても助かった。相談の立場からすると緊急ショートステイを探すのがとても大変で、特に重度障がい者だとなかなかない現状がある。社会資源が増えて身近なところで地域で受け入れてもらえるのは大変ありがたい。人材不足はどこも課題である。市内で身体障がい者の受け入れが多い障害者支援施設からもノウハウを伝えられるような機会が設けられればよいと思う。

【グループホーム担当者】

短期入所については内部でも受け入れに対して不安があったが、今落ち着いて過ごしていると聞いてほっとしている。今も横のつながりで助けてもらっているが、今後も助けてもらいたい。現在インフルエンザの蔓延で職員が足りず、バックアップしてもらえる体制があると安心である。

【事務局】

情報提供。重度重複障害者の受け入れに対する加算について検討している。決まったらまた改めて報告する。

【委員】

ユミトに対する支援学校の保護者の期待も高い。卒業後に行ける場所があるんだという励みになっている。

【委員】

資料1-1の項目6について。重度障がい者の入所施設だと感染症等の心配もあり、ボランティアの受け入れに躊躇することがあるのでは。ボランティアに何を期待しているか。

【グループホーム担当者】

外部サービスから帰宅後、食事や入浴を待っている間に過ごす時間、少しそばにいてもらう、話し相手になる、絵本を読んで過ごす等の相手になってもらえるような夕方の時間だったら来てもらえるボランティアはいるのではないかと思う。

【会長】

ボランティアセンターでも役に立てることがあったら言って欲しい。

【委員】

安心な24時間体制を組んでいるなど思った。

資料1-1の項目9について。感染症対策の前にできることも検討していくとよい。手洗い、消毒、日々の衛生をいかに徹底できるか。その意識付けから始めることも大切である。

【ナビゲーター】

同じ体制を整えているグループホームがそもそもない。つながりをどこに持つか。似た事業内容のところと意見交換できるといいのではないか。

すごく貴重な社会資源。医ケア児者の住居はとても大切。地域として今後も一緒に検討していきたい。

2 計画について

【事務局】

資料に沿って説明。具体的な質問は11月15日までにメールや文書で受け付けている。

3 地域生活支援拠点及び基幹相談支援センターについて

【事務局】

資料に沿って説明。

【委員】

基幹相談支援センターについての説明だが、本来は市民が中心だと思う。基幹相談支援センターが受けた相談を振り分けるという感じでイメージ図が受け取れるが、本人支援はどこにあるのか。本人抜きで進んでしまうような感じがする。

【事務局】

本人を主体としている。

【委員】

振り分ける印象が強かった。一緒に集まって支援を考えるイメージでいたので違うのかと思った。

【事務局】

市民がもちろん中心。相談の入り口を迷わないようにというところを第一に表現した。実際の本人の具体的な支援の体制イメージというよりも、つながっているというところを示している。

【会長】

今後も検討できたらいい。

【委員】

今までと何が違うのかわからない。市役所が総合的な相談の受付をして、なおかつ事業所への訪問支援もしていくのであればどのくらい職員配置できるのか、専門性のある職員配置ができるのかと思った。

ホームページ掲載の資料について。ホームページを見て問題を抱えている市民が相談したら、どうなるのかわからないのではないかと思う。

委託の業務負担が多くなり、人材は確保できるのか。

当事者としてはわかりづらいところや不安を感じた。

【事務局】

・どこが変わるのかというところについて

今までも資源として活用できていた部分がある。窓口と連携強化に向けて支援体制を確立していく。

・基幹相談支援センター職員配置について

専門職(社会福祉士3、保健師1)、事務職1で構成している。

・委託支援事業所の体制強化について

期待される所は大きい。連携を図り支援力を高める。皆で協力する。全体の支援力を上げる。

・Q&Aの内容について

改めて検討する。

【委員】

今までとなりが変わるの、と思う。平塚市が基幹相談支援センターを設置したとわかるようになる
と思う。専門の電話番号などでわかりやすく示すことが大切だと思う。

【委員】

基幹相談支援センターと自立支援協議会の関係性はどうなるのか。

【事務局】

一番違うところは、今まで障がい福祉課の職員が自立支援協議会と個別のケースワークを一緒にやっていたが、今後は業務を分けて、専任で自立支援協議会の運営や支援者支援にあたる。表面としては分かりづらいが、中身は変わっている。

4 地域課題について

【委員】

資料に沿って身障分科会活動報告。

【委員】

認め合い補い合いながら、ここに住んでよかったと思える地域を作っていきたい。住んでいた地区では視覚障がいの方が多いと気づいた。コロナで触れ合いがなくなってしまっていたが、前田委員と話しをしてまたつながりがもてるようになってきた。地域の行事について、以前は声がかかっていたが、次第になくなっていくことを知った。地区社協や民生委員など、皆どうやって関わっていけばいいか話し合った。前田委員の講演では、当事者は何を求めているのか、どうかかわっていくのかという内容であった。聴講者から、「今までそういうことを考えていなかった」という意見があった。講演をきっかけにいろいろな気づきや関心をもてるようになった。今度は聴覚障がいの方からも話を聞きたいと思っている。

【委員】

歩行訓練会で銀座にバス旅行に行った。二つ気が付いたことがあった。参加者は高齢者が多いが、中でも歩くことが非常に遅い方がいた。店に着いて疲れてしまって、なかなか買い物が出来なかった。皆、旅行などの遠出もできないので、広島などのアンテナショップに行った。名物を買って家で食べるのもいいかなと思って企画したが、疲れてしまった方は、負担だったようだ。車イス入れようかと悩んだが、本人が嫌がるかと思入れなかった。家に帰って、本人が嫌がっても車イスを利用すればと反省したが、行った先で、お店は狭く車イスは利用できなかった。

日比谷公園では、トイレを2~3か所利用した。1つだけ音声案内があった。外国語のアナウンスも

あった。こういうのは啓発するからあるのかと思った。公園の中は段差があり、車イスの方は利用できるのかと思った。こういったことに気が付いて、外に出ることもいいことだと思った。

知的障がいの子を持つ親は、家族で出かけることはあるが、仲間で出かけることは難しいのではないかと思う。年に1回は機会があった方がいいのでは。不穏になった際に、お店の人が嫌な顔をしたとき、そういうことはしてはいけないと気が付く機会になるのではないかと思う。

障がいを持つ方が地域に出るためにも、啓発は大切なことだと思った。

【会長】

身障分科会で行っている啓発活動が気づきや声をかけるのきっかけになっている。

【事務局】

医療的ケア児支援分科会の報告について説明。

座談会で意見があったが、医療機器のバッテリーの充電や荷物の移動などの心配がある。ただし、住まいや地域、災害内容についてはかなり個性が高い。個別検討が必要な内容である。

【事務局】

個別避難計画について説明。優先度の高い順に計画を作成していく予定。専門職(ケアマネ等)に協力してもらって作成したい。地域で集まって話し合いをして確認していく(本人、自治会、民生委員等)。

今回、地域での会議を1ケース行った。市内の難病ケース。保健所にも関わってもらっている。今まで3ケースほど個別避難計画作成について相談をもらっている。1ケース完了した。

【会長】

どこから個別避難計画を作成したいという希望が寄せられているか。

【事務局】

くれよん、しせん、地域から高齢者の方の件で出ている。

【会長】

委員の方もなにかあれば発信してほしい。

5 その他

【委員】

育成会かわら版について説明。

障害年金について学習会を開催する。社会保険労務士も参加するので、周知してほしい。

【圏域ナビ】

ナビだよりについて説明。

圏域グループホーム連絡会の発足について案内。

【委員】

1つ目 計画について 11月15日くらいまでに質問といわれたが、連合会に再度説明してもらったかもしれない。

2つ目 ライドシェアについて タクシーとは違い資格もない状態での一般の方による運送になる。5メートルでもずれていたら視覚障がい者には別の所に連れてこられたと思う。何か犯罪に巻き込まれたとき、役に立てない。いろいろ問題があり、不安に感じている。女性も高齢者も同じように不安なのではないか。バスの自動運転も。ここでは解決しないが伝えておきたいと思う。

【事務局】

障害者差別解消法の改正が施行される。今後も民間事業者の努力が期待される。連合会には説明が必要であれば伺うので知らせてほしい。

【会長】

視覚障がい者向けのスマホ講座のチラシについて説明。

閉 会